

# アメリカ愛国者の考察

## ー現代の文化的状況における統一思想の重要性ー

デヴィッド・A.カールソン Ph.D

2008年11月

### はじめに

我々は現在、激しい文化戦争に巻き込まれ、この戦争は致命的にもものとなっている。それは我々の共同体、国家、文化、そして我々の文明そのものの存在さえ脅かしている。「我々」と言うとき、筆者は、現代の文明に属している彼とか彼女のほとんど全員を意味している。

この文化戦争は、おそらくこの文化が終焉を迎える前にはるかに激しくなるようにみえる。それはこの戦争が「価値」を中心としたものであるからである。この「文化戦争」の簡単な例えとして2008年8月22日、インターネットはあるレズビアンが、キリスト教系の診療所で人工的に授精を受けようとしたものの、病院側はそれを信仰的理由から拒否、レズビアンから訴えられた病院が敗訴したとの新聞記事を配信したことがあげられる。それは、そうしたことが想像もできなかったかつての時代からそう遠くない現代において起こったのであった。さらに直近では、アラスカ州のサラ・ペイリン知事が共和党の副大統領候補として指名されたが、それによって文化戦争はますます激化して来た。リベラルなメディアは彼女への人格攻撃を増大させている。或る人々は、文化戦争はすでに弱体化し、存在すらしていないと考えるかもしれないが、現代社会においてそれは再び猛威を振るっているのである。(1)

この激しい文化戦争は明らかに宗教の枠だけに限定されない。特に2008年の今年、恐らく多くの人々は、それが文化、社会などすべての分野においてこの戦争が展開される現実を目の当たりにするであろう。筆者がこの論文において提起する事項は次の通りである。文化・価値における戦争において何がなされるべきなのか?このシンポジウムにおいて焦点を当てられる哲学である統一思想はこの問題に対して何がしかの解決策を提示できるのだろうか?そうそれは文化戦争に「勝つ」ことができるであろうか?筆者自身は、統一思想が重要な解決策を提供するものと信じ、それを本論文において議論しようと考えている。『統一思想要綱』の著者である李相憲博士は、統一思想が実際の問題を解決できるように明確

に設計されていると強調する。(2)

それがどのように可能であるのか、この問いが本論文が扱おうとするすべてである。最初に我々が直面している社会的あるいは文化的な状況を概観することから本論文を始めたい。

## 哲学の歴史的な役割

中世以来、哲学は特に文化に対する解説者として重要な役割を果たして来た。以来、多くの哲学者がかなり利益をもたらしてきた。そのなかのひとりがポール・ティリヒであった。彼が提示した多くの理論の中で、筆者が注目したいのは彼の「相互関係の方法」という理論である。(3) この理論が有用なものであることを本論文のなかで明らかにしたい。

ティリヒは彼の相互関係の方法として神学化の方法を強調する。「相互関係の方法は、キリスト者の信仰を、相互依存の関係のなかにおける神学的解答と実存的解答を提供する」とティリヒは述べている。

天的解答から始めるバルトと異なってティリヒは人間的疑問から開始する。彼が、人間的疑問とするものは人類文化の広範囲な内容を含んでいるが、それは人が自分自身を取り巻く不安や関心、興味などを表現する文化的形式を表しているとの彼自身の信念があるからである。ティリヒにとって絵画、劇場、政治、歴史、社会学、科学、深層心理学、文学、哲学、人生のパターンなどのすべてが彼の人間の状況分析のための興味ある対象なのである。文化的探求の終了において、彼は人が何を尋ねるかを知る。そうすることによってのみ彼は神学化の過程を開始し、宗教、特にキリスト教が、彼の疑問に対してどのような解答を提供するかを示すのである。(4)

言い換えればティリヒは神学の機能、さらに言えば哲学に近い我々の利害は、単なるその時代の社会的コンテクストと無関係なものから示されるのではなく、実に、問われている社会や文化への疑問、あるいは疑問の数々に対する解答と関連して、あるいはそれと近いところのものからもたらされるというのである。むしろそれらの間には、事実上の強い関係、相関関係がある。それは社会からの疑問に対して哲学的な「適切な」答え、特定の疑問へ解答が必要であるかのようなものに似ている。実際には解答が事前に存在しない限り、あるいは答えを求めない限り、哲学が解答として知覚されることはない。哲学がまったく無関係のものとなって漂流せず解答を関連したままで残存するためには、哲学と文化との間に継続したダイナミックな関係が保たれる必要がある。したがって、哲学者には重要な担当役割がある。この事態は唯物論的哲学で絶大な影響があったカール・マルクス(5)

の『共産党宣言』に明確に見られる（犠牲者の数を考えるときにそれには否定的になるけれども）。

ティリヒの理論をわずかに修正して、筆者は、社会が尋ねるべき、あるいは尋ねるべきであった疑問に対する解答とするべきであると主張したいが、問題は何が問われるべき疑問であったのかということである。また今日、問われているものは何なのかということである。さらにそれは誰によって、我々の指導層の人々なのか一般的な市民、または哲学者であるのかということでもある。アメリカの有名なテレビのトークショーを担当し、また著名なジャーナリストでもあるルウ・ドブスは「我々は正しい疑問に答えるためにもはやエリートを当てにすることが出来ない。そして、確かに彼らがもはや関連している問題に関する正確な答えを提供するとは信じる事が出来ない」と述べている。(6) すると、我々は何、または誰に信頼を置くことが出来るのだろうか。

そのような質問を行うことは問題を複雑にする。誰が、文化や社会に関してどのような質問がなされるべきであるかということを知っているだろうか。誰にそのような有利な地位が与えられているのだろうか。誰が、質問されるべき事柄が正当であるのかないのかを最初に知る立場にいるであろうか。あるいは、ときに文化は間違った質問をすることが知られているか、その場合、我々はさらに一歩進めて、なぜ社会や文化が間違った質問を行うのかを尋ねなければならない。あるいは少なくとも、尋ねるべき疑問にならないようにすべきである。それは夢想のような事柄なのだろうか。または、恐らくある種の微妙で隠された操作のようなもの、詐欺的なものかもしれないが、またはこれらすべての混合物のようなものであるかもしれない。または恐らく、統一思想で述べられているような人々に存在する「罪」のせいなのかもしれない。

統一思想の視点からすれば人類歴史は罪の歴史であり、それは人間の墮落までに遡る。墮落のために、人類歴史は原理的に平和な歴史になる可能性は存在しなかった。その代わりに歴史は闘争、戦い、戦争、痛み、悲しみ、災い、および同様のもので満たされた混乱の歴史になった。そのため、人間の墮落(すなわち罪)の問題を解決せずに、様々な問題の根本的な解決を行うことは不可能となる。(7)

人間が問うべき正しい質問を知らないのは、自分たちの「罪」のためであることを人々は知らない。罪は、人々の心を曇らせて、さらに思考を混乱させた。西洋の哲学者ヤコブ・ニードルマンは世界宗教について次のように述べている。

無情にもどのような人類の要望に対してもヒンズーやユダヤ教などの伝統的な宗教における解答は「無慈悲」にはかならない。人間が外的な現実から期待するものが、自分自身

を問うことの反映にほかならないからである。(8)

罪深い人、墮落した人、不正な人、不道德な人、悪の人は問うべき適正な疑問を知らないのだろう。適正な疑問を発するためには、人は、合理的で明確な心を持たなければならず、ものごとが第一に何を必要としたかを知らなければならない。今日、我々が何を必要とするかを本当に知っているのはほんのわずかな人々だけであるにもかかわらず、何が必要かを知らなければならない人々に間違っただけのもの(お金、知識、またはパワーなど)が集中してしまっている。

### 意見、視点、および信念の不協和音

そういった視点で今日の社会を見ると、あらゆる修辞学と意見の対立で混乱する四つの領域が理解できるのは、非常に簡単で明白なことである。社会的な舞台で展開されるこれら四つの4つの問題とは、まさしく筆者自身が最近気付いた次のような点である。

A：2008年の米大統領選—理念、価値、分析、警告、統計、予測、約束、戦術、料金、罪名、あてこすりなどの多様性—

そこには単に相手を攻撃するためだけに使用された、テレビ広告用の巨大な金額だけが目に残る。「土」が少しでもむき出しの際は、ただちにメディアの餌食となる。アラスカ州のサラ・ペイリン知事の劇的な選択、および共和党大会の彼女のスピーチに続いて、話された事柄や彼女によって取られたあらゆる行動はすべてメディアによる無限の分析に晒された。

我々が誰かを攻撃するとき、結局、我々自身の尊厳を傷つけるだけに終わることは、常識である。これは特に、ペイリン知事自身の場合がそうではなかっただろうか。彼女はジョン・マケイン氏によって副大統領候補に指名される以前は比較的未知の人であった(少なくとも国家レベルで)ため、メディアの関心の的ではなかった。しかし、特に民主党側からの執拗なネガティブなスキャンダル探しが始まったのである。彼らは、彼女が人としてどのような人物であるのか、そして彼女の価値は何であるのかという問題には無関心であり、ただ彼女が共和党候補者としてを滅ぶために利用できるものは何でも探したがった。この「スキャンダル商法」は我々が生きている間、選挙運動において行われるのだろうか。

選挙において、社会問題は常に争点になるように見えるが、2008年の選挙もその例外ではなかった。経済問題、国家安全保障、妊娠中絶(生存権)、テロ、および国際情勢が争点となった。ルウ・ドブスなどの批評家の中には、民主・共和の両大政党のほかに、アメリカ憲法の原点に戻ることができる大衆政党のようなものの設立を主張する者もいる。(9)

より強い告発が両政党(民主党、そして共和党)の元衆議院議長ニュート・ギングリッチ氏の著書『本当の変化』によって主張されている。(10) 筆者が本論文を書いている間、選挙は最終版に突入したものの、まだ熱心に争われている最中である。本論文が発表される頃には第 44 代合衆国大統領が選出されているだろう。誰が選挙で勝とうとも、我々が議論する文化戦争は継続されるだろう。

#### B: クレジットカード産業の現状—料金、隠された料金、受益者負担金、金利等—

この問題に関して、しばしば法律用語で書かれている細則を読むことは死活問題となる。ケビン・トルビー(11)による『\$ 借金治療』はこの件に関して素人向けにうまく書かれている。平均的なアメリカ人は日常的に 1 個以上のクレジットカードを使用することが実際の我々の現代社会の現実となっている。一般市民はそれほど巨額の資金投資にかかわらないかもしれないものの、クレジットカードユーザであることに間違いはない。したがって、我々の経済のこの局面について、筆者は特にアメリカ人、およびグローバル経済についても考えざるを得ない。

クレジットカード産業に関して、ケビン・トルビーの『\$ 借金治療』は読者に優しい分析を行っていることは既に触れた。ほとんどの裕福な人々がクレジットカードのユーザであり、またそれほど裕福でない多くの人々もクレジットカードを価値あるものと考えている。しかしながら、普通の消費者はクレジットカードによって借金をするのは常であり、この負債は無視できない額となる。トルビーは、クレジットカード側は、消費者が恩義を感じるような錯覚を生むための何を共謀と呼ぶべきかを明らかにする。彼は非常に興味深い幾つかのポイントを指摘する。そして、消費者が非常に不安定な状況にいることを明らかにし、金融恐慌は近い将来、まったく減少しないことも指摘する。料金と追加料金が何回も加えられる(但し書においてすべての人はそのことに注意すべきである)人々は、どんどん借金がかさんでいくことにある。インターネットでは、消費者の負債との「取引」に彼らが手助けをしているかのような頻繁な広告を見ることが出来る。しかしながら、その方法は消費者の負債を増やすのみとなる。

C. 経済の問題に関しては、何年もの基本的に「健全な」状態の後に、アメリカ経済自身は現在、より広く、確かなスコープにおいて先の見えない状態、難しい時を迎えているようである。ディック・モリスとアイリーン・マクガーンは啓発的な著書『略取』中で見事な分析を行っている。(12) 経済的な問題に加えて、彼らはリベラルなメディアがどのようにテロや、クレジットカード会社の過度の利用の弊害を過小評価したか、また教育的な分野では最高レベルの教師への批判、教職員組合の問題の黙認、映画が若年層へのタバコの悪影響を故意に控え目に扱ったかについて論証している。これらはすべて関連する社会問題なのである。同著のなかには「小さい警告」としか記されていないが、この本を読め

ば多くの方が怒の感情を持つに違いない。しかしながら、我々がそれによって何かの行動を起こす動機づけを与えられるとすれば、それは良いことに違いない。2008年は米国経済にとって、良い年ではない。2008年9月15日のインターネットは、a)リーマン・ブラザーズの救済は失敗し、b)メリル・リンチは買収され、c)銀行の700億ドルのローンプログラムは破綻したとの記事を速報した。筆者は財政の専門家ではないが、これらのことが希望には聞こえない。筆者は以前、ニューヨーク市のメリル・リンチオフィスのそばをよく歩いていた。財政学者は最近、米国経済の状態に関して我々に警告している。10月29日の時点で、経済に関して多くの心配な事が存在している。

巨大な規模における将来の経済的苦悩の、より驚くべき分析と前兆に関して、筆者は、『1兆ドルの溶解』を読むことを勧める。(13) しかしながら、同著はかなりの経済的知識を持つ者のために書かれているため注意する必要がある。普通の読者には、非常に専門的な用語が使用されているため難解となっている。しかし、そのなかから次のような重要な視点が得られることを確信する。

我々は史上で最も無謀な金融環境に生きている。著名な経済記者のチャールズ R.モリスによると、サブプライムローンの抵当危機は、金融資産の全機能が停止する大破壊のプレビューに過ぎない。

明確な指摘を行う『1兆ドルの溶解』は、解かりにくく、誤魔化しが多く、政治の判断ミスによる、またドグマ的な金融商品が史上最大のクレジット・バブルを引き起こしたことを見事に説明している。(14)

どのように考えても、こうした状況はいいものとは思えない。まるで、本論文のプレゼンテーションのために用意されていたかのように、米国経済は2008年10月と11月に打ちのめされた。最大手でかつ最も評判のよかった投資会社や大手銀行が、深刻な経済的苦悩を経験している。インターネット(08年9月22日付け)によると、アメリカ政府は、現在の危機を乗り切るために7000億ドルを拠出するとの方針を打ち出した。日々のニュースは事態が悪化していることを伝えているだけに過ぎないように思える。大統領候補者であるジョン・マッケイン氏とバラク・オバマ氏が金融危機を救済する法案を支持するためにもニューヨークに向かったが、この財政危機を1930年代の大恐慌以来のものであると指摘する専門家もいる。たしかに、全世界の市場はアメリカの経済恐慌で明らかに悪影響を受けている。10月10日の時点で、日本の経済機構は厳しい下降局面を迎えた。アイスランドは破産し、多くの欧州諸国が次の事態に備えている。我々のシンポジウムが開催されるまでに、アメリカやまた他の世界各国の経済状況がどこに軟着陸するのか検討がつかない。あまり希望は見えない。そうした基盤の上で、存在の純粹さと貪欲さに気付くのであ

る。改めて我々は「価値」の世界に存在していることに気付く。

D. 医療情報とインターネットによる指導— この自然食品はあなたの身体に良いとか悪いとか、あなたはこれまで騙されてきており、これまで話されてきた  $x$ 、 $y$ 、および  $z$  に関しすべてを忘れてしまって、ここに本当の治療法がある等々。あるいは、これまで製薬会社によって隠されてきた癌の妙薬があるなど。クレームのリストは絶え間なく続く。再びここで、誰の何を信じていいのかが問題となるのである。多くの人々がますます健康志向になればなるほど、医療情報が混乱する。

かつて開業医が、我々の家庭を往診して治療費を受け取る時代があった。ノーマン・ロックウエルのアメリカ風物誌絵風の時代には、信頼できて頼もしい人物を「ホームドクター」（掛かり付け医）にした。我々は「価値」の世界に住んでいたのである。今日、医療産業、医療過誤訴訟、製薬工業、および健康保険プログラムなどの医療ケアはしばしば非常に冷たく、愛情がないことが常となった。人々はしばしば保健計画(かなり高価である場合がある)に沿って特定の医師を選任しなければならない。再びインターネットから、病院の不注意と死亡の増加という恐ろしいレポートが増加している。

混乱は身体分野に限らない。「セラピーによるひとつの国家」(15) とは、援助が必要と思われる人々を対象にした現代の心理療法主義を批判して生まれた言葉である(不運や悲劇、あるいは失望といったものをいくばくか経験したすべての人を含む産業のことである)。どんな大小の種類の「災害」があろうとも、「セラピスト」は、「犠牲者」のすべてを「助ける」ために家畜の群に入ってきて来るのである。

社会のこれらの四つのセクターすべてにおいて、信じるべきものは何か、大事にされるべきものは何か、支持されるべきものは、または促進されるべきものは、ということはすべて価値システムに関わることである。

### 今日の混乱において我々は何をなすべきか？

既述のとおり、現代の文化的な対話のすべてが修辞学によって混乱するようになるのは非常に簡単なことである。我々は大きな変化と乱流の時代に生きている。そのため、考えるべきこと、信じるべきこと、予想すべきこと、評価すべきこと、および非常に不確実な未来から期待すべきことさえ知るのが難しくなっている。にもかかわらず我々は、何が本当に今日の我々に起こっているかを理解するための努力をする必要がある。価値の明確化を行うべき問題が我々にあるのである。問われている疑問は何であるのか？ そのことを述べる前に、簡潔に統一思想の概観について触れ、今日の問題を理解するための大きな枠組みを描いてみたい。さいわい統一思想には、非常に明確な価値論がある。(16)

統一的視点によると、歴史は善悪の間の戦いであり、人間の内面の善悪の葛藤を世界的規模で拡大したのが民主主義世界と共産主義世界との戦いであると指摘する。(17)

統一思想の哲学的な用語を、人は神学上定義される「終末」と述べるかもしれないが、それは人類歴史において存在する悪世界が原理主管の善世界に移行するカオスの時代にはかならない。この定義は『原理講論』によるものであるが(18)、それは宗教的神学的著書ではあるものの、哲学である統一思想の内容と変わりはない。

統一的視点は、人類の終末において既存の価値がすたれ、崩壊すると主張する。特に性道徳は急激に乱れ、深遠で社会的な混乱は広範囲に及ぶという。(19)

これはまさに我々が今日、目にしている社会的な混乱ではないだろうか(筆者はすでにレズビアンが人工授精をしようとしたという性的に不道德なニュースで本論文を書き始めた。伝統的に、男性と女性は結婚して子供が生まれ、それから以降、幸せに暮らすものである)。それにもかかわらずある意味では、我々が言及した一般的な社会的な問題は、その部分部分に分解して状況を理解することも可能である。我々は、a) 財政的な終末、b) 政治的終末、c) 医療的終末、d) 文化的終末、e) 結婚と家庭の終末、f) 教育的終末、g) 法的終末などについて既に触れた。これらの領域には、すべてに深刻な価値の混乱が存在する。その上、これらの社会的なセクターは多かれ少なかれ互いを重なり合っている。今日の世界において、価値の混乱が生じていることに関して何の驚きがあるだろうか?

しかしながら、我々が「終末」時代に生存しているということが、さらに深刻な事態のように見えるかもしれず、その結果いわゆる「専門家」を含む世界的な学術調査によって究極的な解決策が登場すると思うかもしれない。しかし実に、彼らによって問われる疑問自体が混乱している。その代わりに我々が見るものは十分に興味深く、ルネッサンス以降の事態と同じことなのである。(20) そのことについて触れてみよう。

ルネッサンス以前は、すべての権威が教会または聖書に置かれていた。人々が彼らの人生や世界の意味に関して疑問が生じた場合、彼らは教会に行き「正当」な解答を得るのであった。この手順は、哲学や合理性が神学と切り離されるようになったルネッサンスの時、あるいは「現代的酸化物」(理性、合理性、実験、経験論、論理など)が、人々の日々の生活と密接に結びついた伝統的な当局を侵食するまで続いた。人々がどんな量の確実性でも確認するための残された唯一のものが人間自身の理性(合理性)であったものの、新たに発見された自由思想は、これは多くの哲学的な視点(主観的観念論、合理主義、経験論な



ど)の混乱をもたらした。こうした事態はまさに今日我々が直面しているものにほかならぬように思えるが、理念、価値、観点、議題などの混乱なのである。「現代的酸化物」は、信頼、信用、望みなどを維持することを難しくしている。人が信頼、信用、望み、および信用の感覚を失うとき、その他のものはほとんど残らない。

しかしながら統一原理によると、ルネッサンスが経済、政治、理念が成熟する時代であり、その後の段階として共産主義世界、および民主主義世界へと結実すると述べられている。(23) 現在の文化的状況が我々を何処に導くかを知ることは十分に興味のあることであろう。統一思想は「縦的歴史の横的展開」との視点を持つ。(21)

今、筆者は当初の疑問に戻る。文化が提示すべき適正な疑問とは何であるのか、また我々が聴くべき解答とは何であろうか? 今日の文化的な騒動、また社会的な騒動に対して天によって与えられた「解答」は何であるのか? もしそれがあるとすればそれは何なのか? 最初に、疑問は何なのだろうか?

今日の状況は過去と少し異なっている。文化や社会は未だに疑問を発しているものの、今日、文化は語られざる疑問というよりしばしば多くの疑問を我々に投げかけているように見える。それは言語や音声による質問というよりも静かで、空虚な、そして我々の内部が感じるもののように表現されている。例えば、あるひとりの批評家が次のように述べた。

産業国における成功という文化的定義は、基本的に権力、お金、名声の三つの要素から成り立つ。人がかなりの豊富な所有物を持ち、権力も有し、または著名人として理解されているとすれば、その人はその社会において「成功している」と定義される。(22)

今日の社会において、多くの人々が、お金、パワー、および名声のようなものを多くの異なった方法で探し求めているものの、それを手にするのはわずかに人しかいない。そして、そうした努力を行う人々のなかで、しばしば「自殺」または「離婚」との結末に至る者もいる。2008年10月上旬、韓国の最も有名な女優が自宅で自殺した。こうした悲劇の原因は何であったのだろうか? どんな絶望が彼女をそのような悲惨な状態にしたのだろうか? そのような悲劇的な状況の背景で、無言の空虚さが今日多くの人々の心の中に潜伏しているように思われる。我々が今日、さらに耳にする問題は欺瞞的ながら単純なものである。「ヘルプ!」、人々は今日の不確かな世界で助けを求めている。幾千もの方法(権力、お金、および名声の追求)によってそれを実行するものの、彼らが決して満たすことはできない空虚さにはほかならない。その結果は、より多くの人々が心理的なストレスとプレッシャーに苦しんでいるのが現代社会なのである。したがってアメリカにおいて、必要であると信じている人々を我々は「助けることの出来る文化」を所有しているのである。(これが筆者

が「セラピーの下のひとつの国家」という出版物を今日の文化的傾向に対抗するために取り上げた理由であった)。人々が経験するこの内面の空虚さは犯罪、不道德、肥満、および多くの他の社会悪において明示されているのである。この内面の空虚さは、ある意味の霊的または心理的な病気であり、急速に人々の心に拡がっている。終末には「価値の退廃、巨大な社会的崩壊」(23) が起こるだろう。

筆者がこの状況について考えた時に、「終末」は神学的または哲学的範囲を越えて実際に我々の時代により明確な形で出現したようにさえ見える。結局、大きな動乱とカオスとなる「終わり」の時代において、特に人間社会にすべての面に関係する価値の問題についてはまさにそう言えるのである。これはまさに、我々が現在経験しているものなのである。残念なことに、今日、我々の表現方法は旧式のものともなっている。我々はあまりにも家庭内のであり、我々自身の用語と概念によって語り過ぎる。今日人々は、単純にかつての世代の人々が使用した言語では語らない。「悪世界」を「善の世界」に変えるとは、神学的かつ宗教的な用語であり、より哲学的には例えば自己中心主義からボランティア主義や利他主義への転換、または暴力から平和と調和の世界へ、混乱から明晰さの世界へ、恐れと不安の世界から安心と自信の世界へ、失望から希望の世界へ、不安的な価値から明瞭な価値の世界へとしたほうが理解しやすいのである。これらは「終末」に関する分かりやすい用語であり、人々が容易に理解することができる方法である。それらは最も社会的な会話の方法である。それらはまた社会心理学的な用語でもある。それでは「助けて！」への解答は何になるのだろうか。それは筆者見では統一思想であり頭翼思想にはかならない。始めに文化の右翼と左翼について説明しよう。

## アメリカにおける共和党（アベル）と民主党（カイン）

第一に、我々はアメリカが非常に特別な国家であることに気がつかなければならない。その設立の理念と価値は、人の精神から現れた他のすべてのイデオロギーよりも誇らしいものである。アン・マリー・スラウターは著書『アメリカという理念』のなかで、アメリカの雄大なビジョンを非常に明瞭にしている。我々はその雄大で、高潔な理念に対して不十分であったけれども、再びそこに立ち返り、その遺産を開墾する必要がある。それは、達成しやすい任務ではないものの、もしアメリカが終末において神の摂理上、何らかの重要な使命を持つとするならば、これはアメリカの非常に重大な課題といえる。真の父は神についての平和メッセージにおいて次のように述べている。

神はアメリカ合衆国に第二イスラエルとして仕えることを用意されました。ギリシャ正教やカトリック教会、またプロテスタントも含むキリスト教国家として、アメリカの使命は可能な限り早くキリスト教会に調和と統一をもたらし、21世紀においてイエスの時代

に果たせなかったローマ帝国の責任をまっとうしなければならないのです。神の摂理における責任分担とは、世界 65 億人の人々に平和と統一をもたらし、平和と統一の世界を造り出すのはひとえにアメリカの双肩にかかっているのです。(25)

今日のアメリカの文化的な状況と価値におけるすべての混乱を見る時に、重大な関心を持つのに十二分な理由が存在する。現在進行中の文化戦争は、アメリカのまたは西欧の文明だけでなく神の摂理自身の基盤さえ脅かしているのである。アメリカ人はこの問題について非常に真剣に考察しなければならない。

21 世紀のアメリカの文化的風景を概観すると、多用なパターンを見ることができる。非常に一般的な言葉で言えば、我々の社会には今日、保守陣営がありまたリベラル派もある。それらは左翼をカイン陣営、保守派をアベル陣営または右翼とすることができる。なぜ相分類するかの理由は論をすすめることによって明らかになる。まずアベル陣営について考察してみよう。

アン・コルター、ローラ・イングラハム、シーン・ハニティ、マイケル・サベイジ、ミッシェル・マルキン、ルー・ドップズ、ニュート・ギングリッチ、チャック・ノリスなどはすべて著名な批評家であり、またノリスなどは保守陣営を代表する俳優でもある。彼らは共通の価値と信念を共有している。彼らのほとんどはニューヨーク・タイムズ紙のベストセラー作家であり、なかには二冊も三冊もベストセラーにした者も入る。(26) 彼らすべてには十分な教養があり、かつ雄弁なプロフェッショナルでもあり、非常に多くの我々に密接な社会問題を手掛けてきた。彼らはこうした領域を未着手のままに放置しなかったのである。彼らは個々の裁判官や経済、家族の状況、不法入国問題、国際関係、メディア、およびエンターテインメント、医療産業、ポルノ産業、ローカルでグローバルなテロ問題、および福祉制度を含む教育制度、法廷、および司法制度をとりわけ分析した。ラジオトーク番組において、彼らは日々の、考えられるすべて領域について、そのエキスパートにインタビューして問題の分析を行ったのである。彼らは保守主義の理念に基づいて、現代の文化を侵食するリベラリズム(他のキャンプ)のもたらす弊害を、活動的にかつそれらの言わば病気を治療する方向で多くの批評を行ったのである。2008 年の共和党の副大統領候補者、アラスカ州知事のサラ・ペイリン女史は保守主義者である。彼女が共和党全国大会で語るのを聞いた人々は、保守的な理念と価値のいくつかの感覚を手に入れた気分になっただろう。マイケル・レーガン氏(ロナルド・レーガン元大統領の息子)は、ペイリン知事は父親の女性版ではないかと感じたとインターネット(9/9/08)上でコメントしたほどであった。彼女のスピーチを聞いたマイケルは、自分の父から聞いたのと同じ価値の保守主義であると確信したというのであった。米国ライフル協会の会長を務めていた故チャールトン・ヘストンはまた保守主義者であった。

ほとんどの保守主義者は、客観的に率直に事実を示して、むしろ「丁寧に」に外交的なマナー、非常に理性的かつバランスの取れた方法で表現している。しかし彼らの価値観は非常に明快である。彼らは、それに関して大いに賞賛されることもなっている。リベラル派とその理念や価値観を批判する時、彼ら保守派は自への反論に蓋をするようなことはせずオープンである。保守派は事実上、リベラル派をしかりつけているようなものである。これのいくつかは故意である。こうした状況を、保守派がリベラル派を侮辱し、リベラル派は「うろたえる」のを保守派が楽しんでいると見る向きもあるかもしれない。しかし筆者は、こうした批判は物事の真実を表してはいないと考えている。それは単に、リベラル派が効果をもたらすために使う手法である。しかし、それはうまく機能することも事実である。そのようなリベラル派のスタイルは、ミッシェル・マルキンの言葉によれば、「物事を乱す」(27) ものにはかならない。

保守的な声は、アメリカ国民にとって傾聴に値する主要な視点のひとつである。それは明らかに自らのイデオロギーや行動が左派である論客による「公害」への強い警告と認識されている。(FFWPUのメンバーによって大母様として知られる金ヒョンナム氏も、我々の周りの霊的汚染について言及し、それは我々が理解している物理的な汚染よりはるか深刻であると指摘する)

20世紀末において、人類は深刻な汚染に悩まされた。それらは歴史的に存在した暴力のような人間による残虐的行為や飢餓、宗教戦争、姦淫、詐欺、窃盗、またとてつもないような天災、地震、および台風によって苦しめられたが、神の意思から逸脱し人間の欲望を実現する手段と化した科学による汚染は、特に致命的であり、人類を災難と恐怖に追い込んだ。

しかし人類にとって未知の莫大な汚染が存在している。それは霊的な汚染である。わずかな人々しか、目に見えない霊的な汚染が目に見える汚染より危険であることを知らない。霊的な汚染に打ち勝つための霊的研修センターがオープンした。

## リベラル陣営（カイン陣営）

左翼について考察する時、気付くと、我々はカイン陣営に属していることに気付く。ここには、保守的(アベル)キャンプに比べると非常に異なった雰囲気がある。左翼として大きな主張をするジョージ・ソロス、テッド・ケネディ上院議員、ワード・チャーチル教授、作者のノーム・チョムスキィ、チャールズ・シューマー下院議員、歌手のバーバラ・ストライサンド、俳優のジョージ・クルーニー、ハリウッドの大部分はこの陣営に属している。(29)

しかしながらハリウッドを除いて、少なくとも高等教育を受けたこれらの人々を考えたときに事態はあまりかんばしくない。左翼の人々は保守的な人、および保守的な立場に対して、保守派の人々よりはるかに礼儀正しくなく、かつ不合理な態度で批判している(時には馬鹿にすることさえある)、と筆者は感じている。例えば、サラ・ペイリン・アラスカ州知事は最近、チャールズ・ギブソンとのインタビューに同意した(メディアで放送された)。ところがこの番組は、まるでペイリン知事がかなり無名であるかのように想定されており、問題の核心に触れていなかったのである。実に乏しい内容のインタビューとなった印象を与えたものの、これはアメリカにおける直近の出来事である。あるいはペイリン女史の答えが正確でなかったように放送内容が編集されているもの、彼女の発言を意図的に省略したもの、変更したものなどが明らかなった事例なども存在した。保守派にとってメディアの暴挙は衝撃的であった。しかし、リベラルなメディアからはこのことに対して何の返答もなかった。さらにペイリン知事がケイティー・コーリックから9月にインタビューを受けたとき、コーリックは実に攻撃的な姿勢をあからさまにしたのであった。まるで素人のような方法でコーリックはペイリン知事が無名であるかのようなプレッシャーをかけたのである。対照的に、オバマ上院議員はメディアによってそのような攻撃的な扱いを受けたことは一度もなかったのである。最後に、最近の夜のトークショーでの冗談(レターマン、レノなど)を見ると、ほとんどの冗談がマッケインかペイリンを材料にしている。ごく最近までオバマ上院議員の方が悪いイメージにされていたのではないか? ティナ・フェイによるSNLの印象は別の一例である。そこでもペイリン女史は愚かに見えるよう仕組まれた。その番組は人気であったので、人々の間で反復された。むしろSNLは人々を右派にも左派にも誘導する。しかし、彼らは右派に焦点を当てて、左派に強調点を置く。アメリカのメディア自体はかなりリベラルなのである。

筆者は自分を保守派と理解しているため、私見にはバイアスがかかっているかもしれないものの、リベラル派の意見や主張は保守派より苛性的で、悲観的、批判的ではるかに外交的であるとみている。それは明瞭なことだと思っている。誰がダン・ラザーが放送したジョージ・ブッシュ大統領に関する誤報を忘れることができようか。真実がいったん明るみになると、ラザーはその職を失ったのである。

保守派とリベラル派との継続的な打ち合いはアメリカと世界各地で展開されている文化戦争の代表的なものなのである。

## 左派(カイン)と右派(アベル)の運命

我々は、統一思想要綱から民主主義も共産主義も究極のシステムでないことを知ってい

る。統一思想要綱は次のように述べる；

統一思想の視点は歴史が善悪の間の戦いであり、歴史の終末における善悪の間の戦いが民主主義世界と共産党員世界との戦いである(それは、全世界的な規模で行われる)。この戦いにおいて共産主義陣営は民主主義陣営に屈服され、敗北するのである。結局、両陣営は救世主を通して和解し統一される。(30)

統一思想は次のようにも述べる；

文師の理念と統一運動の理念でもある統一思想は神主義や頭翼思想とも呼ばれる。"神主義"はその中核に絶対的真理と愛を持つ理念である。そして、「頭翼思想」は、右翼でも左翼でもない理念であるが、その双方を受け容れる理念である。(31)

もちろん、通常、伝統的に右翼は保守主義と、また左翼はリベラル主義と同一視される。広い意味で、民主主義は右翼陣営であり共産主義は左翼陣営であると考えられる。歴史的事実として、共産主義は「冷戦」が終わったとき「終焉」を経験し、現在では単に苦境に陥る順番を待つ「国家共産主義」としてしか残存していない(ますます多くの人々が自由を求めるためである)。しかし、これらの国家共産主義は我々の世界における不吉な力でもある。真の父は次のように述べた；

私は共産主義が崩壊すると、それはアラブ諸国を通して蘇り、再び民主主義世界に対抗すると言いました。私が最も心配することはアラブ諸国と民主主義世界との間に起こるかもしれない戦いです。(32)

この指摘は確かに現実となった。これは文化戦争の、より死活的な局面のひとつにほかならない。(33) ここでは二つの非常に異なった世界観、または哲学が異なった価値と方法論を持って存在している。イランとの緊張関係におけるイラク戦争(34)では、世界各地で悲劇的な「自爆テロ」とテロリストによる戦闘が多発している。ブリジット・ガブリエルの著書『彼らは我々を嫌っている』(Because They Hate)(35)は、西洋世界に住む我々が直面するこの非常に危険な戦争の本当の理由を説得力ある方法で解説している。我々は非常に危険な時代に生きている。これは文化戦争にほかならない。残念ながら、特に西洋、およびアメリカは問題の本質を承知もせず、また状況を改善する実行可能な答えも持っているようには思えない。筆者が読んだ著書のなかで、ニュート・ギングリッチだけが、これらのすべてを孤立した事件がより広い(グローバルな)文脈での「戦争」(イラクとの)の断片に過ぎないことを理解している。(36) 筆者は、彼がより大きな構図を「見る」ための努力をしていると考えている。

現時点では、民主主義自体は「衰退」を経験しているかもしれない。ルウ・ドブスの著書『Independents Day』によると、アメリカにおける民主主義の理念が衰退するものではないとするならば、それは不快なものだという。またアン・マリー・スラウターの『The Idea that is America』もまた、アメリカが現時点において多くの可能性を失いつつあると懸念する。しかし、ドブスとスラウターはアメリカの民主主義が衰退の危機から、世界の強国として善なる方向に蘇るバイタリティーがあることを信じている。彼らは、正解からそう遠くないと、筆者は考える。しかしドブスとスラウターは、アメリカの文化が静かに尋ねている「質問」について言及しているものの、彼らさえティリヒによる天から与えられるかもしれない「答え」についてどこに方向返還するかを知らない。しかし彼らは、我々はそのような答えを捜し求め始めなければならないとし、ドブスは、「アメリカ精神よ目を覚ませ」と、またスラウターは危険な世界のなかで「我々の価値への信頼を保ち続けよう」とそれぞれ著書のなかで言明しているのである。疑問は次の通りである。アメリカの精神はどうしたら目を覚ますことができるか？ 危険な世界にある状態で、我々の価値を保ち続けるにはどうしたらいいのか？ どこで、我々はそのような答えを見つけられるのであろうか？ 筆者は、統一思想の哲学においてそのような価値を見つけことが出来ると提案したい。

## 完全な円

多くの人々が感じ、そしてその何人かが発している文化的疑問を完全な円の議論に持ち込むことをティリヒは彼の神学のなかで強く主張する。筆者は「助け」を求める静かな叫びとしてこの疑問をまとめた。そして、我々は、その疑問の答えを見つけるためにどこに方向転換するべきか？ どこから、我々は助けを期待できるのだろうか？ これは恐らく我々が、尋ねることのできる最も重要な問題であろう。

しかしながら最初に、その適切な解答としての統一思想を考察する前に、私は保守的な思想家の検証を行おうと思う。今日のような状況にある我々において、リベラルなラインより保守主義の思想のほうが適当であろう。なぜ筆者がそうしたことをいえるかという、筆者もそうであるように保守主義者も神、アメリカ、信仰、国家、自由、平等、良い子供たち、良い教育、正直、統合などを信じているからである。ロナルド・レーガン大統領はそのような観点の集大成であった。これと同じ傾向は、合衆国の副大統領候補として共和党によって指名され、2008年共和党の党员大会で力強い演説をしたアラスカ州知事のサラ・ペイリン女史によってうまく表現された。筆者も大会の代表らのように彼女の演説に深く感動させられた。

そう述べながらも、保守主義の思想について考察する際に筆者はさらに付け加えたいも

のがあることを強調しなければならないが（人々が同意するであろうさらに優れた視点がある）点に気を付けなければならない。これは保守的な思想家や政治家にさえ欠点、短所、墮落性など先に述べたすべての人間に共通した問題点があるからだ。我々人間には「罪」がある。だれ一人として「完全ではない」。したがって、彼らから学ぶことは多いものの、同時に慎重でなければならない面もあるのである。

### 今日、我々にとって、実行可能な答えがあるだろうか？

今、先に触れた死活的問題に戻って、我々は我々の社会によって引き起こされた社会的かつ文化的疑問に対する解答を得るためにどこで方向転換するべきなのだろうか。アメリカのチャック・ハーゲル上院議員は「我々の政治システムを再定義して、蘇えらせることができる新しい理念の追求」について触れる。(37) しかし、新しい理念はまさしく政治よりはるかに多くのを再定義し蘇えらせることができる。それは社会のあらゆる側面を再定義して生き返らせることができるのである。そうした可能性を持つ新しい理念として統一思想を提示したいと思う。この哲学は文鮮明師の教えに基づいており、彼は世界平和統一家庭連合のメンバーによって愛情を込めて「真の父」とも呼ばれている。彼の説教は多くの書物となってまとめられているがそのひとつは「平和訓経」である。それが読むに値するものであることはさることながら、それはさらに膨大な説教集である「天聖經」からの抜粋に過ぎない。文師の教えは哲学的システムとして統一思想に要約されているが、筆者はこれこそ信仰、価値、倫理、教育、芸術、つまり我々の社会のあらゆる局面について標準化するために用意されたものにほかならないと信じている。標準化という用語に注目して欲しい。文師は次のように激励している。

今日、私はもうひとつの特別なお願いをしたいと思います。私の平和メッセージを縦的・心情的に理解し、人生の指針とするためにその内容に皆様が没頭して下さるようお願いするものであります。その中味は、千巻にも及ぶ真の父母様の説教集の要約にほかなりません。(強調線は筆者による)(38)

指針とは標準化されたものと同じ種類のものである。それは、我々が生涯を安全に航行するために固く守るべき価値と選択である。訓読会は真の父の言葉を反復して読書し、特に我々の時代にある多くの社会悪を排斥できるようになるために与えられた用語なのである。

我々が先入観なしに統一思想を読めば、その論理性、一貫性、包括的な本質性、および無視できない「美」に感動し、個人、家族、および社会の指針、標準になることがわかる。統一思想に示されたビジョンは明確であり、中心に絶対的価値が置かれている。これは常



に安定し最もすばらしいところの哲学といえる。その上、その内容が我々の文化や社会が直面しているあらゆる疑問に応えられる可能性を持つことを理解できるだろう。その内容は、我々が直面しているあらゆる社会問題に対し指導を行いアドバイスすることが出来る可能性があることを発見するに違いない。これらには高度の相関関係がある。倫理は家庭崩壊とすべての犯罪を克服させ、道徳は不道徳に打ち勝ち、徳は不正直に、愛は偏見に、利他主義は貪欲に、真の愛は肉欲に、奉仕は怒りを乗り越えさせ、教育は学校を失敗した学生に、直接間接に益となるのである。これらの内容に含まれているのは、今日我々の文化と社会を苦しめていることへの強力な答えなのである。実際に、誰にでも何にでも適用できる詳しく説明された価値の明確な標準があるのである。残された課題は、それらを全うするためにひたむきな人々が、社会問題に立ち向かって、これらの理念、価値、および理想を貫くことにほかならない。それは知的な理解というよりも霊的あるいは感性的な変化である。保守派の批評家らによる戦略、方針、社会計画、プロジェクト、長期計画、社会活動などすべてをこのなかで見ることが出来る。知らずことができます。そのために我々が行うべきことが三つある。

最初に、右翼である保守主義の文化、価値、理念といった議論の中心になる理念を読むべきである。今日の文化状況において、何が進行中なのかを最初に知らなければならない。井の中の蛙であってはならない。現在行われている議論のなかで指導的な理論や事項を知らなければならない。ティリッヒが述べるように、文化はどのような疑問を呈しているのかを知る必要がある。

第二に、いろいろな面でバランスのとれている視点を維持するために絶えず統一思想を読むべきである。社会問題に関することを読む際、誰であろうと最もバランスの取れた価値と視点を提示する統一思想を心に留めておく必要がある。統一思想の一貫性は偶然ではない。それは『統一原理』を基礎にしているからであり、また注意深く読めば、それが半世紀以上も語り続けた真の父の説教をまとめた『天聖經』とその要約である『平和訓経』に基づいていることに気付くだろう。統一思想は論理的な意味において「ダイヤモンド」のようなものである。

第三に、我々は、あるいは右翼の批評家たちさえ批判するかもしれない可能性がある感覚を維持しなければならない。保守的な批評家の多くが自らの価値観と理念によってその読者を感化することができるだろう。それにもかかわらず、彼らには真の父と同じ見解があるとは限らない。時に、彼らは墮落性を排出しているかもしれない。どのような場合であったとしても、彼らの観点は限定されたものにならざるを得ない。彼らは一般にアメリカ、米国的価値、および米国的な生活を支持している。それらは「国家主義」にほかならない。それはそれなりにすばらしい面もあるものの、真の父はかなり印象的な方法で「神の下の中のひとつの世界」（実際の神の国）に関する解説を行っている。

神の国はかなり急進的な理念である。H.リチャード・ニーバーの「アメリカにおける神の国」概念以来、そのような理念は人々の心でそれほど力強く支持されていない。しかし、この点に関して警告がなされるべきである。かつて、ある個人や社会システムが世界を管理すべきであるとの思想（たとえばナチズムや千年王国主義）があり、アメリカの保守主義者は絶えずそうした世界主義的思考に警戒していたのである。その保守主義者が真の父のビジョンに出会うと、その例外ではないと勘違いしてしまうのである。願わくば、彼らが正しく理解することを期待せざるを得ない。統一運動のメンバーは、自分達がどう真の父が促進している理念を提示しモデル化しているかについて非常に慎重でなければならない。Global Peace Festivalはある種の成功を収めたが、我々はそうした成功が継続されることを強く望むものである。ある人々は、真の父のビジョンがアメリカの理想とビジョンに破壊的でないということばかりか、アメリカの理想を実現する方法であるということがいったんわかれば、彼らは確実にそのビジョンをより研究し、促進していこうとする。彼らは我々と共に働くことを切望するようになるのである。それは我々が切望しなければならない1日でもある。真の父の言葉が現代の社会的かつ文化的状況下に不可欠であること理解されるだろう。我々は、時間を無駄にすることが出来ない。真の父が平和メッセージのなかで述べたように「損をする時間が全くありません」「我々が我々の天的使命を果たさなければ、恐ろしい審判の日をやってくるのです。それは天が到来した後の我々のこの時代に果たすべき責任と使命なのです」。(40) さらに彼は、「この時代は劇的な変化の時代です。あなたには、この時代が天恵と栄光で花開き、実を結ばせる責任があるのです」(41)とも強調する。これは我々の非常に重大な責任分担です。『統一原理』は「次のように述べる。

第三世界戦争は必然的に起こる。しかしながら、それが戦われる可能性には二つの方法がある。ひとつはサタン勢力を武力によって屈服させる方法である。他の方法は、より内的・理念的な戦いであり、武力を用いない方法である。これらのどの方法で第三次世界大戦は戦われるべきであろうか。それは人間の責任分担の遂行如何によるのである。(42)

興味深いことにニュート・ギングリッチは第四次世界大戦について言及している。(43)我々は2008年現在、我々の社会を苦しめる通常の問題に加え、新たな数個の臨界現象に直面している。このひとつはイスラム教のファシズム、あるいは「聖戦主義」にほかならない。他のものは同性愛者間の結婚運動で表面化している過度な自由主義の横暴である。何が我々の批判的な現代において、人間の責任分担なのだろうか。これらの問題や他のリベラリズム勢力と闘って今日における我々の責任分担を果たすため、重要なことのひとつは、ネットワークを形成することが大切である。我々はすなわち、正しい人々、保守的な

人々とのネットワーク形成に努めなければならない。

本論文の多くが、アメリカやアメリカの状況に集中している。筆者が引用した批評家のほとんどはアメリカ人である。それは筆者がアメリカ人だからであり、アメリカ人愛国者でもあり、また今日におけるその国の状況を憂慮しているからである。筆者がアメリカに焦点を合わせるのは適切なことだろうか。これはただの愛国心ではないだろうか。これは「アメリカは善いのか悪いのか」との単純なものではないのか。そうではない。アン・マリイ・スラウターは次のように述べる。

我々の歴史において、一般市民の指導者となりアメリカ社会の最高の基準を護った偉大な愛国者たちは、あえて追放、刑罰、投獄、さらにおよび時には死さえ覚悟する時があった。結局、それは愛国心を単なる愛国主義（ナショナリズム）から区別するものであったのである。それは「私の国家が間違っているのか正しいのか」の問題ではない。それは偉大な独米戦争の際のドイツ人であるカール・シュルツの言葉にある。「我々の国が正しいのか間違っているのか。もし正しいとするのならそのまま正しく保って下さい。もし間違っているのなら、正しく是正してください」。 (44)

先に触れたように、アメリカは神によって建国され、今日の神の摂理にとって非常に重要な摂理的な国家である。さらにアメリカは今日、あるいはまたは少なくとも過去にあつて、世界において有力な国であり、今までに地球上に存在したなかでは最も偉大な国である。しかしそれは、摂理のために神によって創造されたからにはほかならない。それは韓国、またはアジア、ヨーロッパ、またはアフリカなどの国々へまったく関係しないことではない。我々は今日、地球村に生き、アメリカで起こったことは不可避免的に他の文化に影響を及ぼす。経済はその一例に過ぎない。2008年10月28日現在、全世界は米国経済の弱体化のため激震している。アメリカの進行方向に世界も動くのである。確かに、韓国などもそうである。したがって、アメリカにおいて文化戦争に勝つことができるなら、筆者は、それが世界により良い影響を及ぼすと信じている。我々がアメリカにおける文化戦争に負けることになれば、それは世界中に恐ろしい悪影響を与えることだろう。これは我々が敗北することの出来ない一回だけの戦争である。何時この戦争に勝つことが出来るのだろうか、結果はどうなるだろうか。先に触れたように、ルネッサンスは新しいアイデアと価値を生み出し、また二つの世界観の対立ももたらした。我々は現在、第三次世界大戦の最中にあり、現在、文化的またはイデオロギーの戦争中である。この戦争に勝つとき、我々は統一された価値の視点を持つ善良と平和の新文化の到来を見ることになるだろう。これは我々全員が切望する世界になるであろう。これは「新時代の栄光の花が咲く」ことになるのである。

**我々はそれまで、何をすべきか**

アメリカ人のチャック・ハーゲル上院議員は「現在我々が立つ地点から、我々はアメリカの次の章にどのように書き始めることができようか」と尋ねる。(45) その件に関して述べる前に、非常に重要なポイントを指摘しておきたい。統一運動においても家庭をどうすべきか、どのようなステップを踏むべきかについてしばしば不確かなものがある。ある者は経済活動を行い、別のものは世間で働く。また子女を大学に送ることに心配している。そこでは、毎日、実用的なもので関わるべきことが多くある。家庭連合の多くのメンバーが新たな責任分担についた際、将来に向けて何をなすべきかが不確かである。我々には美しい理論があるものの、我々の習慣はどうだろうか。誰が次のカール・マルクスの激しい宣言を忘れることができようか。「世界を理解することは重要ではない。世界を変えることこそが重要なのだ!」。我々の置かれている状況では、このマルクスの指摘は非常に適切だと言わざるを得ない。世界を変えたいのである。我々は実際に何をすべきであろうか。原理講義をするべきか? 隣人を伝道するべきか? 我々の会議に人々を招待するべきか? 洞班撃破をするべきか? 何をしているべきか? これは我々が尋ねることができる最も重要な質問である。しかし、この分野こそ保守的または右翼の批評家たちがかなりのサーブスを我々にした場所である。右翼あるいは保守派(アベル)の批評家たちは、社会的・文化的問題について彼らの分析を行った後、彼らが見る多くの社会問題を軽減するか、または解決する方法として重要なひとつのステップを提案する。ニュート・キングリッチは次のように述べる。「あなたが手にしているアメリカを改善するための方策は、単に個人のものではなく多くの人々が共有すべき方法である」(46)。彼はアメリカ人が適切な方向に動くための非常に適切な方法を提供する。こうしたステップは、人々が読むべきものを提供している。

保守的な批評家たちは我々のために多くの仕事をした。彼らは、行動戦略(実行すれば社会問題に大いに減少させることに役立つ実用的なステップ)を分析して、しばしば詳しく説明した。これらのステップこそ、我々が「真の父の言葉を応用しようとする」ときでさえ我々が引き受けなければならないその課題に対する有益な解答を示しているように思える。保守的な批評家が行ったことは、我々がすべきことである。それらは我々が絶えず真の父から要望されていることとあまり異なっていない。我々はこれらの人々とコンタクトを取り、これらの人々の信頼と尊敬を得てネットワークを形成する必要がある。その基礎の上に、我々の文化を救済する必要があると考える彼らと協働することができるのである。アベルはビジョン、価値、行動、および天によって与えられた委任なしでカインを屈服させることはできない。我々はそれらの品質を持つ(望むらくは)人々である。結局カインを抱くことなしには、我々は、カインを屈服させることはできない。アベルは、それを我々に伝えている。我々がしなければならないすべては、ネットワークを形成し、彼らと協働して戦略を達成することである。一般論として、保守的な批評家は社会問題に関

して真の父と同じシナリオを持っている。彼らは不道德とポルノを嫌悪し、強い家族の絆を望み、公正と正直と統合を求め、良い学校などを望んでいる。そのような活動は「この時代が天恵と栄光で花開いて、実を結ぶ」ことを実現するのである。私が博士号を得たカリフォルニア州クレアモントにあるクレアモント大学院大学では、「ネットワーク(ネットワーキング)が世界の最も厳しい問題に取り組むよい方法である」と強調されていた。(47)

我々統一運動が形成するそうしたネットワークは、統一思想の観点から我々の思考方式、他との関連性などユニークな方法でつくられるべきである。これは各個人の責任である。我々が過去に得た評判を考慮すると、そのようなネットワーク作りは楽な仕事ではない。我々は信仰から行動を起こし、その動機は純粹であったもののその結果は、いくつものかなり乱暴な誤りを犯した。我々がそのとき達成するべく神から与えられた課題を、達成するほど十分に我々はプロフェッショナルではなかったのである。この欠落の最たる苦痛とも言える例が2008年の韓国の選挙の惨たんたる結果であった。韓国では、家庭堂(党)が完全に敗北したのである。(私は、ここ数年間我々が行ってきた統班撃破が上手くいってれば、この韓国の選挙ははるかにうまくいっただろうと信じている。実に我々はそれをしなかったのである!これに関しては、さらに述べる事が出来るものの立場上、私はそうするのを控えたいと思う)。我々は、保守的な思想家のレベルまで成長して、彼らの同僚とまでなるべきである。これは現在の我々のレベル以上の高いプロフェッショナルリズムを求めることになる。我々には、価値とビジョン、そして行動力があるものの、社会的に権力や影響力のある人々から敬意や信用、および賛美を得ることができるプロフェッショナルリズムをまだ持ちえていない。それは単に、社会的に影響力のある著書のインデックスを確認して、これらの本の著者や組織の主張を真剣に受け止め、どのような人々が有力なのかを確認することから始まるだけである。その人々は我々の社会に影響を与えている。めったに文師や統一教会、家庭連合について言及は見つけきれない。これは何かを我々に訴えている。我々が理解する必要があることは、我々の知識と専門性また理解力、および分析力において我々はプロフェッショナルリズムを必要とするということである。保守派の人々の著書を読むということは、彼らがプロフェッショナルリズムを持っているため我々の成長に役立つということである。しかし、さらに重要に我々の流儀のプロフェッショナルリズムを持つということだろう。我々の方法、スタイルなど我々の「パッケージ」はすべて重要である。我々は、我々の理念を話し、提示して彼らの敬意と信用を獲得し、有力な人々との関係を構築する必要がある。我々はこのタイプのプロフェッショナルリズムが悲しいことに乏しい。

したがってネットワーク形成は重要であるものの、より重要なことは我々がそれに取り組むべき方法である。多くの人々、特に二世が家庭連合に関して幻滅するようになる。彼らは、自らのライフスタイル、低いレベルの生活水準、継続する犠牲的生活などで彼らの

両親を見て不快に感じている。これはかなり重大な問題といえる。社会は様々な種類の多くの誘惑を伴って彼らに襲ってくる。我々は、我々の子供に統一思想の範疇に留まって欲しいと思っているものの、彼らの幾人かはそうになっていない。そのうえ、社会で影響を持っている人々は我々を受け入れず、尊敬もしていない。それで問われるべきは、我々はどうのようにしてそのネットワークにアプローチするべきであろうか？ 筆者の信念は、それが「世俗的な」ネットワークでないばかりか「盲目的な信仰」のネットワークでもないということだ。その双方が極端であって、非生産的である。我々のネットワークは現実には価値指向でなければならないが、「我々」が行うパッケージ化は非常に洗練されていなければならない。これはそれぞれの個人の責任にまでなっている。各個人は洗練されて価値の視点を維持しつつ、プロの態度でそれらを実行する。これは信仰と人生、理念と活動の間の高度なバランスを必要とする。我々が統一思想の基準において成熟すれば、「そのような規格を応用する」ことにおいてそう難しくはなく、ふさわしい人物とコンタクトを取ることが容易になると信じている。アメリカのチャック・ハーゲル上院議員は次のように述べている。「我々の成功は努力と、賢くて知的な方針と、強力で開明的な指導力の結果である」。(48) 我々は我々が努力することを知っており、そして課題に関して知識を持つことができ、そしてその結果、将来においてアメリカと世界の心情的なリーダーになることができる。そすることやそうなることに失敗するとするならば、それは我々が「盲目的な信仰」であったか能力がなかった結果であり、我々は誤りを犯し続けることになるだろう。そしてこれらは我々が達成しようとしていることに対し非生産的にことになるであろう。

### **また、我々は左翼を知らなければならない**

確かに、我々が切望しなければならないプロフェッショナリズムの一部は、我々の周りの社会で働いている様々な力を理解することである。そこで気付いてもらいたいのは保守的な学者だけではなく、今日、左翼グループが形成する様々なフォームの形態でもある。参考のために、今日、文学的に言及されてはいるものの価値について言及するグループが表面的には無毒に見えるものが、実際は固有の問題の原因となっているものがある。

文学的に表現する幾つかの左翼グループとして「平和と正義の連合」(UPJ)や、「タイデス財団」、「ベン&ジェリー財団」、「マッカーサー財団」、「フォード財産」、「ロックフェラー財団」、「米国自由人権協会」(ACLU)、「国民法律家組合」(NLG)、「活動中組織」、「アメリカ式の人々」、「教会と国家の分離のためのアメリカ人」、「計画された父母」、「米国教育協会」、および「国民の行動」などである。筆者はこれらのグループのすべてに詳しくはないものの、彼らは正直かつ事実ベースの討論を行うものとして社会に受け入れられている。しかしながら、単にこれらの組織が保守的な批評家によって指摘されたという事実が、彼らの性質を人々に対して躊躇させている。これらの或るものはあなたを驚かせるだろう。

これらの或るものは私を驚かせた。既に述べたように、我々はこれらのグループから何かを研究して学ぶべきである。それは知識があることと「プロであること」である。過去の共産主義同様、それらのグループは実際には統一思想の世界観に反目している価値、信念、および戦略を持っているものの、純粋な名前を装っている。(例えば「民主主義社会を求める学生連合」SDSのように) (49)。結論を言えば、注意深過ぎるということはない。私が読んだそれらの著者に対して、「疑わしきは罰せず」の原理によって、ミスリードされるよりは信じるものを与える方がましであるということである。

結論として、筆者が指摘した要点のいくつかを繰り返したい。1) 統一思想の批判的な研究は重要だが、だれ一人、そうした作業を十分に行ったプロフェッショナルは存在しない。2) 同時に、今日の社会における正しき人々のネットワーク形成は緊急の課題である。3) 我々は、直面している文化戦争の様々な要素になじみ深くなる必要がある。それによって、今日の文化がどのような疑問を発しているかということが理解できるようになる。そのために我々は、保守的な批評家の著書と活動になじみ深くなる必要がある。4) また我々は、価値指向の視点の地平に留まるために統一思想を詳しく研究する必要があり、これこそ文化が発している疑問に対する現実的でしっかりした天的解答に出会う方策である。ある意味で、我々こそその答えにほかならない。5) 我々は、内的かつ外的にプロフェッショナルな方法を培う必要がある、そのことによって、6)我々が正しき人物の信用と敬意を勝ち取ることができる。7) 我々は自身の責任として、保守的な批評家たちが彼らの視点から対応している社会問題に対する彼ら「アクション・ステップ」を早める必要がある。そして、8)他のものと協働することによって我々が生きている間に行われている文化戦争における勝利を獲得することが可能となる。我々は、天恵とすばらしい栄光でこの現在の時代を花開かせることができるようになるのである。